

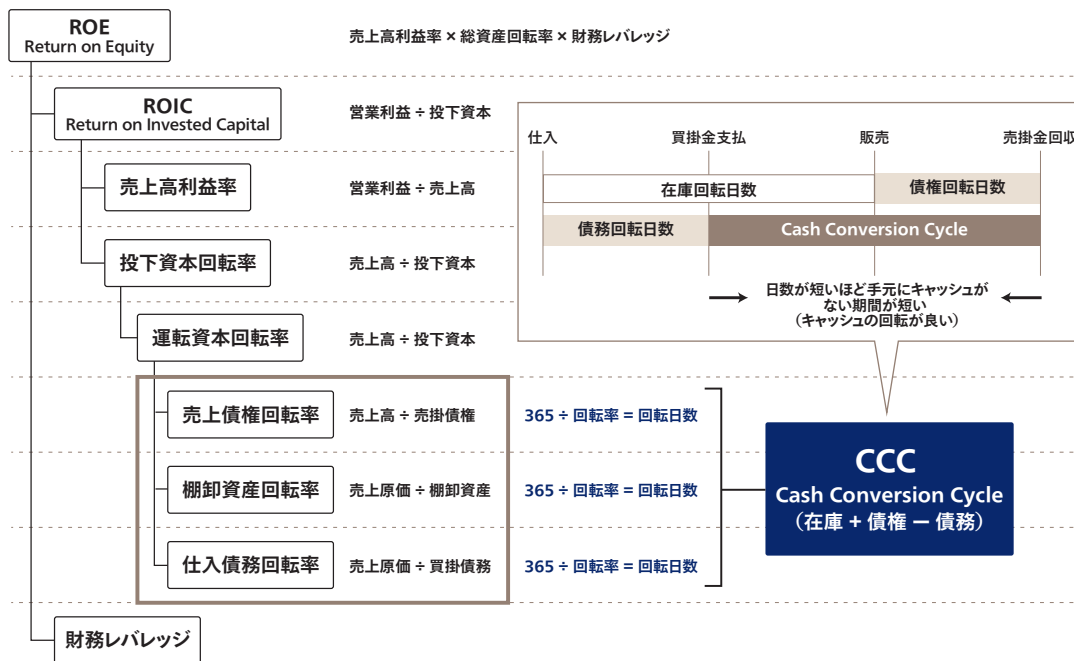
データドリブンによりCFOアジェンダを解決するSmart CCC価値創出サービス

資金効率向上を通じたROE/ROICの改善支援
CCC短縮に向けたデータに基づく要因分析・業務改善施策の立案/実行支援

企業は、投資家からROEやROICに代表される「稼ぐ力=経営力」の改善/向上を求められています。ICT業界をはじめとした技術革新も日進月歩で進んでおり、GAF^{*1}などの台頭によりビジネスサイクルも短くなる傾向にあります。それに伴い、企業の資金繰りサイクルも短期化を迫られています。また、昨今のCOVID-19のような不測の事態を想定し、企業存続のための安定的な資金創出の実現は、CFOに求められる重要なアジェンダになっています。そのためには、CFOが先頭に立ち資金創出のスピードアップ(Cash Conversion Cycle^{*2}の向上)を通じた財務基盤の強化を推し進めることが肝要です。このような環境において、投資家からの期待やビジネススピードの変化に応えるため、CCCの向上もCFOアジェンダに上がっていますが、その目標達成に向けた課題解決に時間がかかっている企業は、実は多く存在しています。

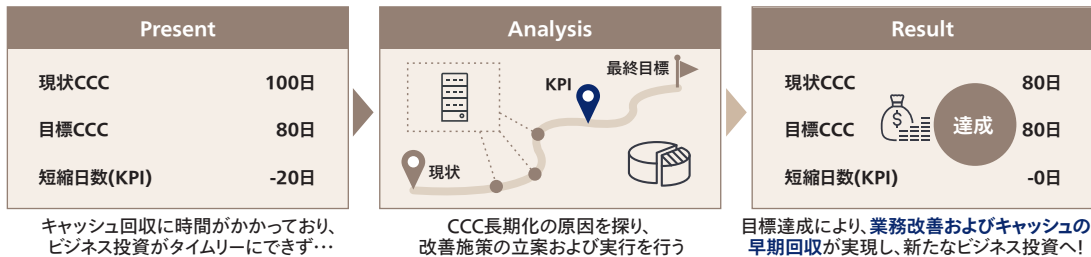
*1:Google/Amazon/Facebook/Apple *2: Cash Conversion Cycleは以降CCCと表記

ROE/ROICとCash Conversion Cycle(CCC)の関係性



CCC短縮化により創出される価値

資金を早期に且つ安定的に創出しながら企業価値(ROE/ROIC)を向上させるためには、財務戦略としてCCCの短縮を進めることが重要です。CCC短縮により、在庫改善や債権債務の回収・支払サイトの見直しなど、企業の持続的成長に向けた改善および次なるビジネス投資の機会増大の早期実現が可能です。



すでにCCC短縮に取り組まれているお客様:

十分に阻害要因へリーチできておらず、必ずしも順調に進んでいないケースに対して、データ分析を通じて課題のある業務にアプローチし、その改善から効果創出まで一貫して支援致します。

これからCCC短縮に取り組まれるお客様:

自社分析に加え、他社比較を通じた現状の把握からCCCを活用したマネジメントの実施まで企業の状況に合わせた支援を致します。

Smart CCC価値創出サービスの提供価値

アビームコンサルティングは、企業のCCC短縮化を支援する際、Visibility（見える化サービス）とConsulting（データ分析・BPR支援サービス）を一体として提供するSmart CCC価値創出サービスを基本ソリューションに据えています。

Smart CCC価値創出サービスは、ファクト（データ）をベースにCFOが事業や部署の垣根を越えて行う改革のサポート、企業が継続的に業務改善や新規ビジネス投資ができる態勢を構築する土台づくりを目指します。

Smart CCC価値創出サービスのアプローチとステップ

CFOの課題解決につながる資金創出に向けたカギは、効率とスピードです。効率的にCCCを短縮するための課題の発見と解決を図らなければ資金創出のスピードアップは実現できません。

Visibilityサービスでは、企業から提供されたデータをクイックに「現状把握～CCC短縮の阻害要因発見」まで可視化することを支援します。

Consultingサービスでは、データに基づいてファクトベースの課題を抽出、阻害要因の解消に直結する実効施策をクライアント企業と共に立案します。また、ダッシュボードによる施策効果のモニタリングを通して、KPIへの着実な到達に向けたフォローアップを行います。これにより、効率的にCFOの課題解決に寄与することができ、結果として資金創出の早期実現にアプローチします。



アビームコンサルティングは、総合コンサルティングファームならではの幅広い業種／サービスのカバレッジ、デジタル技術を活用したファクトベースの業務改善アプローチでプロジェクトを遂行してきました。資産としてシステムを構築せず、必要なデータを提供いただくことで、主要なKPIの見える化を短期に実現し、多くのBI関連プロジェクトの実績に基づいた最適な提案力を生かしてサービスを提供します。



デジタル技術を活用したアプローチ



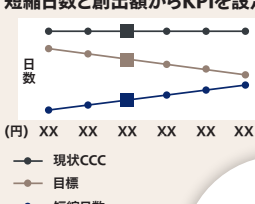
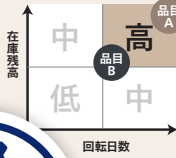
弊社Cloud環境を用いたクイック&スモールスタート



豊富な他社事例を踏まえたコンサルティング

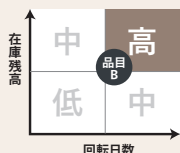
Use Case: Smart CCC価値創出サービス(在庫改善の例)

Plan:現状把握と目標(KPI)の設定／阻害要因分析と施策立案

現状CCC	100日	(レポートイメージ) 短縮日数と創出額からKPIを設定	阻害要因分析① 優先順位の見極め (品目Aが阻害要因)	阻害要因分析② 品目別に詳細分析 (先入先出が徹底されていない)	施策策定																
目標CCC	80日																				
短縮日数(KPI)	-20日			<table border="1" style="font-size: small;"> <thead> <tr> <th>品目</th> <th>入庫日</th> <th>出庫日</th> <th>保管日数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>A-1</td> <td>4/1</td> <td>7/31</td> <td>121</td> </tr> <tr> <td>A-2</td> <td>5/1</td> <td>6/30</td> <td>60</td> </tr> <tr> <td>A-3</td> <td>6/1</td> <td>7/31</td> <td>60</td> </tr> </tbody> </table>	品目	入庫日	出庫日	保管日数	A-1	4/1	7/31	121	A-2	5/1	6/30	60	A-3	6/1	7/31	60	<ul style="list-style-type: none"> ● 滞留在庫の廃棄 ● 先入先出運用管理 見直し ● 安全在庫指数の見直し
品目	入庫日				出庫日	保管日数															
A-1	4/1	7/31	121																		
A-2	5/1	6/30	60																		
A-3	6/1	7/31	60																		
KPI分解	-3日 -15日 +2日	<p>関係部門巻き込み</p>																			
創出額(効果)	xx円 xx円 xx円																				

Action:更なる改善に向けた施策立案／実行

目標15日に対し10日達成、残5日を達成すべく別品目への改善施策立案と実行



要因分析～施策実行プロセスへ

Do～Check:KPI達成に向けた効果のモニタリング

品目Aの改善を確認 在庫回転日数の短縮に伴い CCCも短縮

